

「神戸学院大学人文学部人間心理学科・心理学マニュアル」の改訂と活用

小川 翔大 清水 寛之

1. はじめに

神戸学院大学人文学部人間心理学科では、人の心や心理学という学問領域に興味をもって入学する学生が多い（小石他，2012）。そして、人間心理学科の学生は、さまざまなかたちで心理学を将来の自己に生かすことの可能性やその限界を模索しながら学生生活を営み、卒業後の進路を決めている。このような学生生活を支援するため、人間心理学科では2010年4月より「神戸学院大学人文学部人間心理学科・心理学マニュアル」（以下、心理学マニュアルという）を刊行して学生に配布している。心理学マニュアルは、学生が常に携帯し、自分が何をどのように学ぶのかに迷った際に関き、より実りのある学生生活を送るための補助教材として作成された。そして、われわれ教員は、心理学マニュアルを活用することで、狭い意味での心理学の学修事項だけでなく、社会人としての行動やマナー・エチケット、自ら主体的に学ぶための方法、1年次生から4年次生までの人間心理学科のカリキュラム、心理学を生かした卒業後の進路などを学生に理解してもらうことを期待している。

以下では、これまでに人間心理学科で作成した心理学マニュアルの内容と変遷を示し、心理学マニュアルに関する学生アンケートの結果を整理して、今後の心理学マニュアルの改訂の課題と展望を考察する。

2. 心理学マニュアルの内容と変遷

心理学マニュアルは2010年度4月に初版が発行された。心理学マニュアルは学生が毎日携帯できるようにA5判とした。初版の内容は、「第1章 大学生のかたち」、「第2章 ゼミ発表の準備をしよう」、「第3章 心理学の基礎を学ぶ」、「第4章 各領域の知識を深める」、「第5章 卒業論文の進め方」、「第6章 人間心理学科の施設・設備・機器紹介」、「第7章 卒業後の進路を考える」、「第8章 先生・先輩からのアドバイス」という八つの章で構成されていた。

初版の第1章では、大学生活や授業における心構えとマナーについて記すとともに、大学生活や心理学の学修で役立つような文献情報を紹介し、文献の検索方法を解説した。第2章から第5章では、人間心理学科での授業カリキュラムの説明と併せて、ゼミ発表資料やレポートの作成方法、2年次生後期から選択して所属する人間心理学科の4領域（発達心理学領域、臨床心理学領域、医療心理学領域、社会心理学領域）の説明、3年次生の施

設見学実習（学外実習）の準備や心構え、4年次生の卒業論文の進め方や執筆方法をまとめた。第6章では、人間心理学科が管理する教室や実験室・実習室の見取り図や写真を掲載し、授業や卒業研究で使用する実験機材、参考図書や絵本、教室設備の利用上のルールを解説した。第7章では、人間心理学科で取得可能な「認定心理士」をはじめ、卒業後に大学院や専門職養成施設で必要な知識・技術を修得することで受験可能な「臨床心理士」、「社会福祉士」、「言語聴覚士」といった心理学関連の資格や、学外実習先である「少年鑑別所」、「児童相談所」、「精神保健センター」といった心理学関連の職業に関する情報を記載した。第8章では、人間心理学科の教員と実習助手から学生に向けたメッセージを記載した。当初、心理学マニュアルは1年次生から4年間使用してもらうことを想定していたため、初版の巻末には1年次から4年次までの各年次の年間目標欄、時間割表、単位表を添付していた。

なお、心理学マニュアルは人間心理学科専門教育科目の授業の教科書としても用いられている。例えば、1年次前期で履修する「人間心理学入門実習Ⅰ」では、心理学マニュアルに記載された内容に沿って、大学生生活の過ごし方の講義を行っている。他にも、「社会心理学入門実習」や「心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ」では、心理学マニュアルを基にレポート執筆方法を解説している。

心理学マニュアルは、2010年度から毎年度4月に内容を改訂して発行しており、2016年度で第7版となった。初版から第7版までの心理学マニュアルの変遷を図1に示す。第2版(2011年度)は、1年次生のみ配布され、2・3・4年次生には初版から変更された内容をまとめた小冊子が配布された。第2版までの心理学マニュアルは1年次生にのみ配布されていたが、改訂するたびに記載内容の加筆や修正があること、小冊子は紛失しやすいことなどを踏まえて、第3版(2012年度)から最新の心理学マニュアルを全学年の学生に配布することにした。それに伴い、巻末の各年次の年間目標欄と単位表は削除された。さらに、「大学生のかたち」で紹介していた心理学の学修に役立つ文献案内と「人間心理学科の施設・設備・機器紹介」の所蔵絵本一覧は、ページ数の増加のために削除され、それらの図書の所蔵場所の紹介のみに変更した。第4版(2013年度)では、学生から教員にアポイントメントを取りやすくすることと、学生の社会人としてのマナー・エチケットを向上させるため、人間心理学科の教員と実習助手のメールアドレス、出講日、オフィスアワーをまとめた教員情報一覧を巻末に加筆した。第5版(2014年度)では、各章に記載する内容の構成を整理し直した。例えば、第4版までの「大学生のかたち」で解説されていた文献の検索方法は、第5版では「講義・演習・実習」の章に追加した。他にも、第4版までの「心理学の基礎を学ぶ」では、2年次に履修する「心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ」の説明と併せて心理学レポートの書き方を解説していたが、第5版では「レポート」という章タイトルに変更してレポートの執筆方法に特化した解説を行った。第6版(2015年度)では、Web上で卒業研究の実験協力者の募集と実験実施日程の管理を行う「Sona System」の導入に伴い、その利用方法を「人間心理学科の施設・設備・機器紹介」に加筆した。そして、第7版(2016年度)では、心理学論文執筆のためのガイドラインである「執筆・投稿の手びき2015年度改訂版」が日本心理学会発行から発行されたため、「レポート」の章の記載内容を改訂された手びきに合わせて大幅に修正した。

3. 心理学マニュアルについての学生アンケート

2011年度から人間心理学科で実施している学生アンケートでは、心理学マニュアルの携帯状況や役立つ内容などを調査している（小石他, 2012, 2013, 2014; 吉野他, 2015, 2016)。以下では、第2版から第6版までの調査結果の概要を報告する。

	初版(2010年度)	第2版(2011年度)	第3版(2012年度)	第4版(2013年度)	第5版(2014年度)	第6版(2015年度)	第7版(2016年度)
表紙							
総頁数	115頁	127頁	107頁	112頁	116頁	120頁	135頁
第1章	大学生のかたち	大学生のかたち	大学生のかたち	大学生のかたち	大学でのルールとマナー	大学生のかたち	大学生のかたち
第2章	ゼミ発表の準備をしよう	人間心理学科の施設・設備・機器紹介	人間心理学科の施設・設備・機器紹介	人間心理学科の施設・設備・機器紹介	人間心理学科でのルールとマナー	人間心理学科の施設・設備・機器紹介	人間心理学科の施設・設備・機器紹介
第3章	心理学の基礎を学ぶ	ゼミ発表の準備をしよう	ゼミ発表の準備をしよう	ゼミ発表の準備をしよう	講義・演習・実習	ゼミ発表の準備をしよう	ゼミ発表の準備をしよう
第4章	各領域の知識を深める	心理学の基礎を学ぶ	心理学の基礎を学ぶ	心理学の基礎を学ぶ	レポート	レポート	レポート
第5章	卒業論文の進め方	各領域の知識を深める	各領域の知識を深める	各領域の知識を深める	4領域の実習・体験・見学	各領域の知識を深める	各領域の知識を深める
第6章	人間心理学科の施設・設備・機器紹介	卒業論文の進め方	卒業論文の進め方	卒業論文の進め方	卒業論文	卒業論文の進め方	卒業論文の進め方
第7章	卒業後の進路を考える	卒業後の進路を考える	卒業後の進路を考える	卒業後の進路を考える	卒業後の進路	卒業後の進路を考える	卒業後の進路を考える
第8章	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス	先生・先輩からのアドバイス
	全年次生に配布	1年次生にのみ配布	全年次生にのみ配布	全年次生にのみ配布	全年次生にのみ配布	全年次生にのみ配布	全年次生にのみ配布
主な変更	2・3・4年次生は初版から第2版の変更・追加一覧を小冊子で配布 軽微な変更と補足の追加	「心理学の文献案内」 「所載する絵本一覧」 「年間目標・単位表」 の削除	「教員情報一覧」 の追加	各章に記載する内容 の再編	実験参加者協カシステム (Sona System)の追加 の追加	「第4章レポート」 の内容を修正	
学界の動向	・学校心理士スーパーバイザー(CSP-SV)資格認定	・一般財団法人日本心理研修センター設立	・「精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-5)」(日本精神神経学会)日本語訳版発行	・「精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-5)」(日本精神神経学会)日本語訳版発行	・公認心理士法案可決成立 ・「執筆・投稿の手びき2015年改訂版」(日本心理学会)発行	・認定心理士(心理調査)制度開始	

図1 心理学マニュアルの変遷

3-1. 2011-2014 年度までの心理学マニュアル携帯状況・利用内容・役立った内容

2011 年度から 2014 年度の心理学マニュアルの携帯状況の割合を図 2 に示す。すべての年度で心理学マニュアルを毎日持ってきている学生は 2 割に満たず、7 割以上の学生が授業で必要な時しか持ってきていない。心理学マニュアルは、学生が毎日携帯することを想定して作成したが、多くの学生は授業に応じて心理学マニュアルを持参していることが明らかとなった。

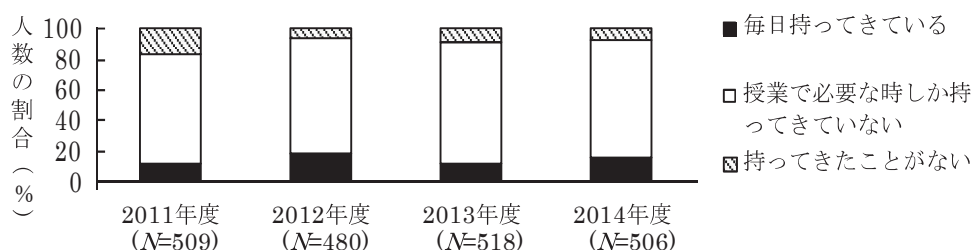


図 2 2011-2014 年度の心理学マニュアル携帯状況
小石他 (2012, 2013, 2014) と吉野他 (2015) を基に作成。

心理学マニュアルの利用内容の自由記述をカテゴリー分類し、分類された記述の合計度数と合計度数に対する各カテゴリーの割合を算出した。2011 年度から 2014 年度の利用内容のカテゴリーとその割合を図 3 に示す。すべての年度で、「レポート・ゼミ発表」の割合が最も高く、次に「利用しない」が高かった。利用内容の推移をみると、2011 年度から 2014 年度にかけて「レポート・ゼミ発表」の割合は 51.5% から 60.9% へ増加し、「利用しない」の割合は 33.0% から 23.1% へ減少していた。

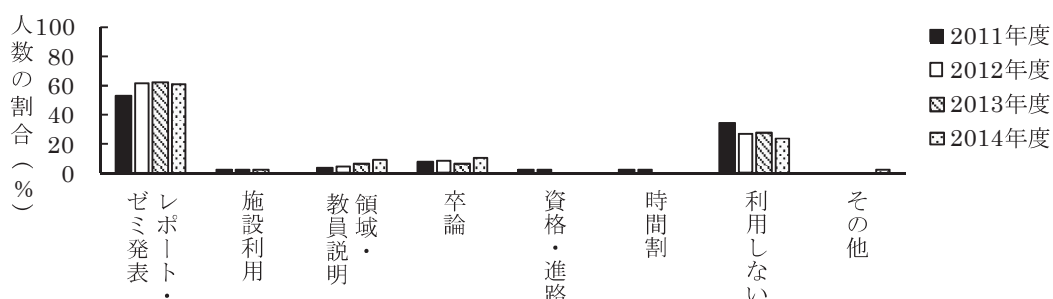


図 3 2011 - 2014 年度の心理学マニュアルの利用内容
小石他 (2012, 2013, 2014) と吉野他 (2015) を基に作成。
2014 年度から「その他」のカテゴリーが追加された。

心理学マニュアルが役立った内容に関する自由記述をカテゴリー分類し、分類された記述の合計度数と合計度数に対する各カテゴリーの割合を算出した。2011 年度から 2014 年度の役立った内容のカテゴリーとその割合を図 4 に示す。すべての年度で「レポート・ゼミ発表」の割合が高く、6 割以上の学生がレポートやゼミ発表で役立ったと回答していた。次に「役立ったことがない」の割合が高かったが、その割合は 2 割に満たなかった。

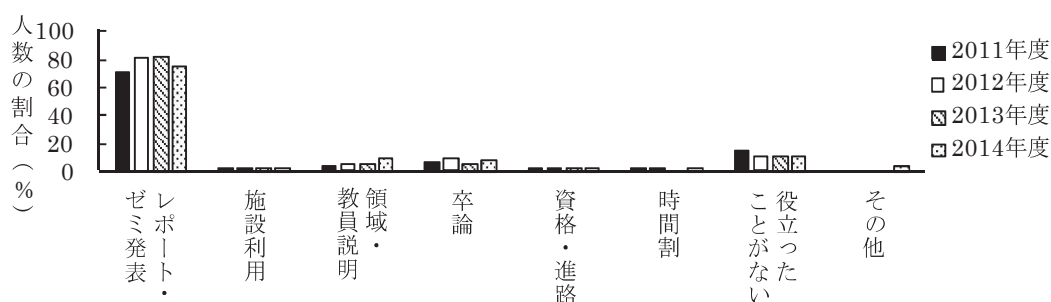


図4 2011 - 2014 年度の心理学マニュアルの役立った内容
小石他 (2012, 2013, 2014) と吉野他 (2015) を基に作成。
2014 年度から「その他」のカテゴリーが追加された。

3-2. 2015 年度の調査概要

2015 年度は、2014 年度まで使用していた質問項目の一部を変更して調査を実施した (吉野他, 2016)。まず、2015 年度の心理学マニュアルの携帯状況は、学科全体 (N=430) で「毎日持ってきている」が 9.3%、「授業で必要な時だけ」が 53.0%、「あまり持ってきたことはない」が 37.7%であった。学年次別の携帯状況の割合を図5に示す。

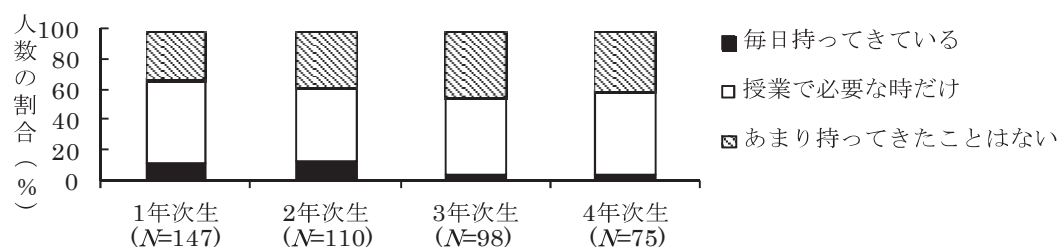


図5 2015 年度の心理学マニュアル携帯状況 (吉野他, 2016)

心理学マニュアルで役立った内容について、「授業や大学生活のルールとマナー」を含む9項目から選択させた結果 (複数選択可)、学科全体で最も多く選択された項目は、「レポートの書き方」(74.5%)であった。これは、1・2年次生で履修する「社会心理学入門実習」や「心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ」で全学生に対して個別にレポートの作成・提出が課されるため、心理学マニュアルをレポート作成の参考図書として活用したためであると考えられる。次に、学年次別の役立った内容の回答した割合を図6に示す。4年次生では「卒業論文の進め方」と回答した学生が57.7%であり、半数以上が卒業論文に取り組む際に心理学マニュアルを活用していた。

心理学マニュアルで今後さらに充実させてほしい内容について、「授業や大学生活のルールとマナー」を含む9項目から選択させた結果 (複数選択可)、学科全体で最も多く選択された項目は、「現状のままで問題ない」(46.8%)であり、約半数の学生は内容に満足していた。充実させてほしい内容として挙げられた項目は、「卒業論文の進め方」(21.1%)が最も多く、次いで「レポートの書き方」(18.0%)、「卒業後の進路」(15.5%)、「資格取得」(11.8%)であった。次に、学年次別の今後充実させてほしい内容の回答した割合を図7に示す。図7の特徴的な結果に着目すると、1年次生では「資格取得」の割合が高かった。これは、1年次で進路や資格取得に必要な単位数を踏まえて、卒業までの履修計画を立て

るためであると考えられる。また、3年次生では「卒業論文の進め方」の割合が高かった。これは、3年次のゼミからプレ卒業研究を行う学生がいるため、プレ卒業研究を含めた卒業論文の執筆計画を立てるためだと考えられる。

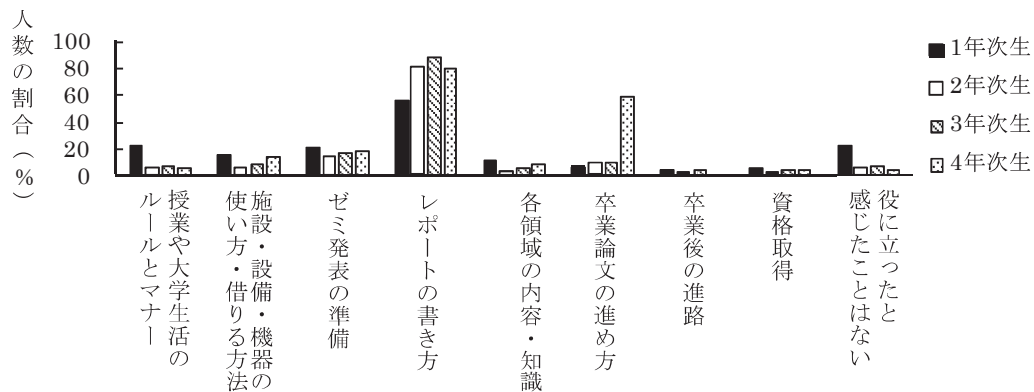


図6 2015年度の心理学マニュアルで役立つ内容 (吉野他, 2016)
人数の割合は、回答者数を各学年の人数で除して算出している。

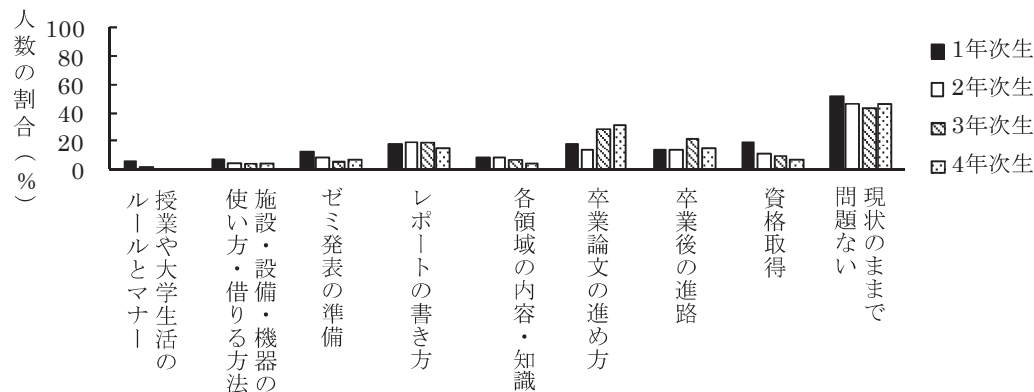


図7 2015年度の心理学マニュアルで今後さらに充実させてほしい内容 (吉野他, 2016)
人数の割合は、回答者数を各学年の人数で除して算出している。

4. 今後の課題と展望

心理学マニュアルは、学生の利用状況やニーズ、人間心理学科の教育設備の変化に伴って改訂を続けてきた。本来、心理学マニュアルは学生が常に携帯することを前提に作成されたが、毎日携帯している学生は少なく、多くの学生は必要に応じて大学に持参していた(図2, 図5)。しかしながら、改訂するたびに心理学マニュアルを利用する学生は増加しており(図3)、多くの学生はレポート執筆やゼミ発表の際に役立つと回答していた(図4)。特に、2015年度は、心理学マニュアルをレポートや卒業論文の執筆に活用する学生が多く(図6)、現状の心理学マニュアルの内容に満足している学生が多かった(図7)。

以上をまとめると、心理学マニュアルは人間心理学科の学生が充実した学生生活を送るための補助教材として、有効に活用されていると言える。しかしながら、レポートの書き方や卒業論文の進め方、進路や資格取得の内容のさらなる改善を求める学生もおり(図7)、そうした要望に適切にこたえる必要がある。例えば、卒業論文の進め方では、3年次生に

も役立つような卒業研究の準備に関する解説を加筆すべきだろう。また、資格取得では、2015年9月16日に「公認心理師法案」が公布され、2017年4月に施行予定であるため、公認心理師の資格情報の加筆が急務である。そのため、今後、本学における公認心理師資格取得のためのカリキュラムを整備し、資格の概要と取得方法を明確にしていく必要があるだろう。さらに、人間心理学科における3つのポリシー、すなわちディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を明記し、履修系統図（カリキュラム・マップ）を整備して記載することも今後の重要な課題の一つである。

最後に、心理学マニュアルは、教員と実習助手のスタッフ全員が執筆に携わり、人間心理学科として学生に期待する内容を互いに確認しながら作成及び改訂を行ってきた。そのため、心理学マニュアルは、学生の補助教材としてだけでなく、教員が学生に対して一貫した教育を行うための指針としての機能もある。教員スタッフの間で教育上の改善点を十分に議論して、今後も指導内容の共通理解を深めるとともに、学生の実態やニーズに合わせた心理学マニュアルの改訂を行うことが必要だろう。

引用文献

- [1] 小石 寛文・木戸 盛年・秋山 学・日高 正宏・博野 信次・石崎 淳一…本田 周二 (2012). 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題 (VI)——2011年度学生アンケートの結果報告—— 人文学部紀要, 32, 73-93.
- [2] 小石 寛文・松田 崇志・秋山 学・日高 正宏・博野 信次・石崎 淳一…光浪 睦美 (2014). 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題 (VIII)——2013年度学生アンケートの結果報告—— 人文学部紀要, 34, 43-66.
- [3] 小石 寛文・光浪 睦美・秋山 学・日高 正宏・博野 信次・石崎 淳一…道重 さおり (2013). 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題 (VII)——2012年度学生アンケートの結果報告—— 人文学部紀要, 33, 109-130.
- [4] 吉野 絹子・長谷川 国大・堀 麻佑子・光浪 睦美・小川 翔大・毛 新華…清水 寛之 (2016). 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題 (10)——2015年度学生アンケートの結果報告—— 人文学部紀要, 36, 191-208.
- [5] 吉野 絹子・堀 麻佑子・秋山 学・日高 正宏・博野 信次・石崎 淳一…光浪 睦美 (2015). 神戸学院大学人文学部人間心理学科における教育の現状と課題 (IX)——2014年度学生アンケートの結果報告—— 人文学部紀要, 35, 217-238.